

才建物の解体にもなる。太陽光パネルの処理フローと費用を明確にしたい」

Q・近年、産廃業者や鉄スタラップ業者の上場が増えているが、上場することは考えているか

「上場する予定は全くないが、既に弊社は、企業価値では先頭グループに負けない取り組みをしているつもりである」

Q・会社の未来をどう捉えているか

「平林金属のような静脈オンリーという形態の会社はなくなるかと常々考えている。将来的には静脈業者という言葉はなくなり、それが早ければ二〇三〇年、遅くとも二〇五〇年にはそうなっている」

「現在は動脈産業と静脈産業がそれぞれ独立していて、業として棲み分けができていて、将来的にはメーカーが全てある時代が来たらと思う。つまり、作っ

たものを市場で売りたいけれど、ちゃんと後始末を求められることとなる。静脈自体は更にレベルが上がり、スマートな業態になる。おそらく、メーカーや大手企業のグループが大部分を行うことになる。鉄大生産者責任が今後

は更に広がり、独立した静脈業者としては、変態して進化していくと考えている」

▼平林金属グループ概要

資本金	2億5280万円(グループ合計)
従業員数	360名(グループ合計)

▼平林金属株式会社概要

所在地	岡山県岡山市北区下中野 347-104 TEL: 086-246-0011 FAX: 086-246-1100 E-mail: honsya@hirakin.co.jp URL: http://www.hirakin.co.jp
創設	昭和31年10月
資本金	9,980万円
代表者	代表取締役社長 平林実
売上	173億円(2017年12月決算)
事業内容	鉄、非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業等
拠点	岡山工場・東岡山営業所・港工場・水島営業所・山陰工場・リサイクルファーム御津・西大寺工場・玉島物流センター
グループ企業	株式会社ヒラキン リサイクルステーション 玉島ヒラキンテック株式会社 ヒラキン興産株式会社

平林金属 西大寺工場 昨年十二月に古紙ヤード開設 非鉄類は自働・手動で精選別

古紙と非鉄類を扱う西大寺工場を見学

昨年十二月三日、平林金属として初めての古紙ヤードが、既存の西大寺工場の一角にオープンした。西大寺工場の敷地面積は七千坪で、以前から稼働していた古紙棟は六千三十六坪で、真ん中をスクリーンで仕切り、ペーラー棟高倉庫に分けていた。古紙ペーラー棟は昨年計画して昨夏から着工した。

工場設備は昭和の百二十馬力の省エネペーラー、拓己技研の自動繰取り機と選別ライン、シヨベルローダーとリフト。投資額は土地、工場、機械設備を合わせて三億八千万円。

工場スタッフは、三人体制で選別・ペーリング加工を行う。今年中この古紙棟の側面に、えい便を開設する予定。元々古紙ヤードの開設と同時にえい便をスタートさせるつもりだったが、えい便の開始が予定より遅れていた。

平林社長がインタビュで述べているように、古紙の扱いは基本的にはえい便とヤードで回収した社扱いが中心である。つまり家廃系古紙の扱いがメインだ。現在の自社の扱ひ量は月間四百トン、製作期は六百トン、当面の目標は月間千トンとしている。

平林金属グループ内の三つのシュレッター工場から発生するミックスメタル

は月間四百トン、製作期は六百トン、当面の目標は月間千トンとしている。

平林金属グループ内の三つのシュレッター工場から発生するミックスメタル

は、大正製紙の関連会社であるタイオンエンジニアリング製で、導入に際して、一昨年昨年に実施された国の省CO2型リサイクル高等度化設備導入促進事業の補助金制度が適用された。このミックスメタル専門工場では素材ごとに三十種類に選別している。扱ひ量の六七％が金属類、三三％がプラスチックとなっている。

当時、世界初の導入となった、固気流動式転式アルミ選別装置では、二億八千トン扱っている。



平林金属・西大寺工場入口



古紙ヤードの在庫スペース



非鉄工場に設置されている自動ブラ選別機



アルミをふるふるアルミ選別装置



アルミをふるふるアルミ選別装置